

教員名	若林 隆久	所属学科	地域政策学科
-----	-------	------	--------

**【ゼミでは何を学ぶのか】**

①経営学や組織論の知識や考え方を身に付ける ことと②コミュニケーションに関する能力を高めることを目標としています。どうすれば人の集団がうまく活動し目標を達成できるのかを学ぶと同時に、他者に自分の考えを上手に伝えたり、他者と円滑に共同作業や議論を行ったりする方法を身に付けます。

**【どのように学ぶのか】**

**1. 輪読・ディスカッション**

普段のゼミでは、毎回数名の報告者を定めてテキストを輪読します。身近な組織や実在の企業の事例と結びつけて議論を行い、内容を腑に落ちるように理解することを目指します。



**2. フィールドワーク・課外活動 (写真は海外でのフィールドワークの様子)**

学んだ知識を現実社会と結びつけるために、実務家へのインタビューや、工場・店舗・サービス施設といった企業や組織の活動現場の見学を実施します。インナー大会はじめとしたプレゼンテーション大会に参加して、商品企画やビジネスプランの提案などにも取り組んでいます。その他、懇親会や合宿なども行っています。



**3. ゼミ生による主体的なゼミの運営**

自分たちで主体的にゼミを運営すること自体が、経営学や組織論のよい実践の機会となります。自分の頭で考え、仲間と議論・協力しながら、自分たちが満足できるゼミを自らの手で作り上げてもらいます。

**【学んだことはどのように生かせるのか】**

世の中のほとんどすべての活動は組織とその経営によって成り立っています。リーダーシップの発揮、自分や周囲のモチベーション（やる気）の向上、魅力的な商品やサービスの提供、などの知識や考え方は、身近な生活にもヒントを与えてくれますし、企業・自治体・NPOなどで働く場面に限らず社会に出てからも幅広く役立ちます。

**【おすすめの入門書・基本テキスト】**

佐々木圭吾 (2016) 『みんなの経営学：使える実践教養講座』日本経済新聞出版社。  
 高橋伸夫 (2016) 『経営の再生：戦略の時代・組織の時代 [第4版]』有斐閣。  
 有川浩 (2013) 『県庁おもてなし課』角川書店 (角川文庫版)。

**【まだ見ぬ君へのメッセージ】**

大学時代には自由な時間と立場が与えられますが、その一方で、何もしなければただ過ぎ去ってしまいます。単に知識を得るだけではない、一緒にゼミを作り上げていくという経験をしてみませんか。最初からうまくできる必要はありません。ゼミにおける活動・運営・懇親を楽しく積極的に行う意欲のある人を待っています。